

チャレンジプロジェクトのメンバーと笑顔を見せる真衣さん（前列中央）



若者が活躍する場を作るために 自分ができることからチャレンジ



しばた まい
柴田 真衣さん（18歳）
西根鑓水在住

金ケ崎チャレンジプロジェクト実行委員会代表。仲間とともに「雪明り」を企画、実施した。小・中・高校時代はバレエに汗を流し、活躍。両親、姉と4人暮らし。

金ケ崎で若者が活躍できる場所を作りたいと、町内の高校生たちが「金ケ崎チャレンジプロジェクト実行委員会」を立ち上げ雪明りを実施した。このプロジェクトの発案者であり代表を務めるのが真衣さんだ。「自分たちが活躍できる場があることを知ってもらうため、まずはアクションをと思い企画した」と若い力が今動き出した。

真衣さんは、昨年夏に「TOMODACHI Iサマー」という留学に参加し、アメリカで3週間まちづくりやリーダーシップの必要性について学んできた。留学がきっかけで金ケ崎について学び自分の知らないことに多く気付いたという。その時感じた「自分と同じように知らないことがある人にもまちを知ってもらいたい」という思いがプロジェクトの始まりだった。その中で若者のリーダーシップを考え、活躍する場が少ないと感じた真衣さん。「自分ができることを何かしたい」と帰国後に自ら友人に声かけをして立ち上げたのがチャレンジプロジェクトだった。「今回、企画から運営まで実行することの大変さと楽しさを学んだ」と充実した表情を見せ「この事業が自分たち以外にも広がり、やりたいと思う人で続いてくれれば」と願いを込めていた。

今後は「夢に向かい大学で頑張り、金ケ崎に戻って地域に貢献できれば」と目標に向かい歩みだしていた。

広報日記



広報1月号を発行後うれしい出来事がありました。「表紙の子かわいいね」という言葉をいただきました。腕が上がったかなと勘違いな思いを勝手に抱いていましたが…。単純にモデルがとてよかったのだなと理解し舞い上がった思いを落ち着かせました。

しかし、今年はいろんな角度から皆さんが思わず手に取りたくなる表紙を目指し、工夫していきたいと思います。

2月号は高校生たちの挑戦を見て私もチャレンジしたいという思いになり、広報担当になって初めての風景写真に挑戦しました。（阿部）

人口と世帯		1月31日現在	
		※()内は前月比	
人	□	15,634人	(-11)
男		7,922人	(-3)
女		7,712人	(-8)
世帯数		6,015世帯	(-2)